

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	志村 健	経営	H2001068
	②	平林 亨子	福祉	H2301072
	③	小田嶋 ひろ子	福祉	H2301098
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	喜多見小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	157-0067		
	所在地	世田谷区喜多見3丁目11番1号		
	TEL	03-3416-8246		
事業所代表者氏名	事務局長 磯貝 創一			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 8 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 9 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 8 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 17 日			
評価合議日	2025 年 9 月 17 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 11 月 25 日

事業者代表者氏名 磯貝 創一

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)児童の安全な遊び及び交流の場の提供 2)自主的な遊びの活動への意欲及び態度の形成 3)学年を超えた児童館の遊びを通じた交流を促進し、児童の創造性、自主性及び社会性を養うこと 4)学校、家庭、地域等と協力しての遊びの環境づくりへの支援 5)全戸に掲げるもののほか、児童の健全育成上必要な活動</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の命、体、心の安全を常に意識できる児童生育支援者であることを期待している。 ・子ども達の良き遊び相手であり、人間関係や心の持ち方についての知恵ある助言者であってほしい。 ・子ども達には愛情深く真摯に接し、保護者の方々にも丁寧に応対できるような人材であることを望んでいる。 ・人格者として尊敬できる生育支援者であることを願っている。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な宝物である命を預かっている子どもたちの心身生育支援者であることを自覚して仕事に専念してほしい。 ・目配り、気配り、心配りを常時できる支援者でありことを期待する。 ・将来の日本を、世界を背負う大切な宝物の生育の支援者であることに使命感を持ってほしい。

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

98

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
98	0	98
42	0	42
42.9	0.0	42.9

利用者調査全体のコメント

調査対象者98名のうち、42名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「子どもの不満や要望は対応されているか」「職員の接遇・態度は適切か」などがあげられる。
 総合的な満足度では、39名が「大変満足、満足」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「丁寧に見てもらっている」「もっといろんな活動がやりたい」「友達同士とトラブルになったときに両方の話を聞いてほしい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	35	4	2	1
35名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「おやつ時間や友達との遊びが楽しい」「漫画やおもちゃで遊ぶのが楽しい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	24	10	3	5
24名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「先生によって違う」などのコメントもあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	38	3	0	1

38名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「友達と食べられて楽しい」「おやつがおいしい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	21	11	1	9
21名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「自分から発言したことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	27	10	0	5
27名が「はい」、10名が「どちらともいえない」と回答している。約束ごとについて職員から説明を受けている様子が見える。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	28	5	5	4
28名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。清掃や整理整頓が概ね行き届いている様子が見える。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	32	7	1	2
32名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。全体的に肯定的な回答が多いなか、「先生が友達を呼んだときの呼び方が気になった」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	34	3	0	5
34名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「保健室に連れて行ってくれたり、何度か助けてもらった」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	9	2	0
31名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「これからも見守っていてほしい」とのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	28	9	2	3
28名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「気持ちを大切にしてくれていると思う」「先生が忙しそうに話しかけづらいこともある」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	20	9	3	10
20名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。子どものプライバシー保護について、一定の配慮がなされている様子がうかがえる。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	33	6	1	2
33名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。全体的に肯定的な回答が多いなか、「友達とケンカしたときに注意してくれるけど、仲直りできないこともある」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	15	10	6	11
15名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(○)・非該当1	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	○あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ●非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(○○)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(○○○)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	具体的事例を通じて方針を浸透させ、連携と理解の深化に努めている 世田谷区の7つの目標を基に策定された5つの方針は、職員への周知において日々のミーティングで繰り返し伝えられている。また、支援場面で実際に起きた具体的な事例と結びつけることで、職員が理解しやすくなる工夫がなされている。子どもへのアプローチは日常の関わりや、学年会のテーマとして取り上げて伝えている。一方で、保護者については、「新BOP便り」で配信しているものの、コロナ禍により集まる機会が減少したことから、今後は新たな形で理解を得られるよう工夫する方針である。	
	安全な預かりを軸に協力と連携の体制づくりを進めている 学童クラブは、区の2つの課により運営されており、それぞれに業務の役割が明確に定められている。事務局長は全体の運営に関する包括的な管理を担う一方で、指導員やプレイングパートナーが所属する課が異なり、指導・育成等は主に区の指導員に委ねられている。基本的な役割である「子どもを安全に預かること」を軸に、課の役割を理解しつつ、共通認識のもとで協力する体制を築いている。事務局長としては、今後は指揮系統の統一により、効率的な運営が実現し、より豊かな子どもの居場所となることに期待している。	
	仲間への理解を深め、包容力と社会性を育む支援を行っている 区が示す子どもの居場所の要素である「時間・空間・仲間」の中で、特に近年1年生の比率が高いことから、「仲間」へのアプローチを重視して日々の育成を行っている。子どもが居場所として安心して過ごせるよう、職員だけでなく子ども同士もインクルーシブな意識を持つことを促し、支援が必要な子どもへのサポートを行いつつ、関係づくりや社会性を育むためのコミュニケーション方法の指導も実施している。そのために、職員の育成が重要であると捉え、基本的な社会性に加え、子どもの視点をもって対応できるよう取り組んでいる。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>地域の信頼を基盤に、変化する保護者ニーズの把握に努めている</p> <p>地域で歴史ある小学校に併設され、長く運営されている学童クラブであることから、保護者からの信頼は厚く、運営体制への理解も十分に得られている。そのため、学童クラブに求められるニーズは、安全に楽しく過ごすことが中心であり、保護者からの具体的な意見は少ない。一方で、地域の学童クラブを統括する児童館長は、児童館の利用状況を分析し、今後の学童クラブ利用に関する保護者の傾向を把握している。今後は、転入者などを含めた地域の変化やニーズの推察を行い、運営に反映させていく意向である。</p> <p>支援が必要な児童への理解を深め、関係機関との連携強化に努めている</p> <p>近年、要配慮・支援が必要な児童の利用が増加していることを踏まえ、保育園や幼稚園との連携を通じて事前に情報を把握し、適切な職員配置が行われている。一方で、これまで保育園や幼稚園などのサービスを利用していなかった児童については、学童クラブでの利用を通じて初めて専門的支援の必要性が明らかになるケースもある。このような状況を受け、児童館との連携にとどまらず、子育て支援機関なども含めた情報共有や連携体制の強化が、今後ますます重要になると予測している。</p> <p>区の方針に基づき、地域課題の把握と改善策の検討を行っている</p>		

クラブでは、区の「7つの目標」に伴い、家庭での子育て支援、安心して過ごせる居場所づくり、共働き家庭への支援を重点課題としている。特に、支援が公平・公正に提供できるよう留意し、真に支援を必要とする家庭への的確な対応を重視している。課題検討委員会で区全体の共通課題を扱い、実務会議で現場に即した課題解決が進められている。また、職員各自がこうした課題について共通認識を持つことができるよう、毎年「7つの目標」に基づくチェックリストを活用し、再確認を行っている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

カテゴリ-3の講評

子どもの権利擁護を基盤に安全で安心な環境づくりに努めている

職員は採用後に「児童指導員基礎研修」を受講し、子どもの権利擁護や虐待防止について深く理解したうえで現場業務に従事している。さらに、事務局長や職員同士が日々の言動や言葉遣いを相互に確認・指摘し、改善を図る体制が整えられている。子どもの日常の様子から家庭状況を推察し、必要に応じて「せたホッと」や児童相談所と連携した対応を行うことで、子どもの権利を守る仕組みが確立されている。学童クラブでは、活動時間を安全に過ごせること自体を子どもの最も身近な権利擁護と捉え、全ての子どもの状況把握に努める体制が構築されている。

地域と保護者の信頼に支えられた安定した運営を続けている

学童クラブでは、苦情解決制度や担当者について利用契約時に説明しており、区役所の各種相談窓口を通じても意見や要望が寄せられる仕組みが整備されている。地域で長く運営してきた実績により、地域住民や保護者からの信頼が厚く、日常の連絡や対話を通じて細かな要望や苦情も丁寧に聞き取り、対応できる体制が構築されている。このような地域住民との密な関係性と日常的な対応により、大きな苦情に発展するケースは少ないことが強みとなっている。

地域と学校が協力し子どもの安全と育成環境の充実を図っている

地域と学校の連携は、子どもを取り巻く安全確保や育成環境の維持・発展において重要な基盤となっている。現在、事務局長が参加する地域連絡協議会では、地域の関係者や団体と共に子どもの安全に関する懸念や課題が共有されており、下校時の見守りや声かけなどを地域全体で担い、学校もこれに協力している。また、区独自の「新BOP」においては、放課後子供教室と学童クラブが一体的に運営されているため、その仕組みや運営内容について、学校関係者に理解が深めることで、地域・学校との協力や連携体制の強化を図っていきたいと考えている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>丁寧な観察と情報共有により安全で安心な環境づくりを進めている</p> <p>子どもの安全確保は、日々の怪我防止と感染症予防を最優先課題として位置づけている。そのため、年3回、看護師を招いた研修を実施し、てんかん発作時の対応や正しい手洗い方法などについて職員向けに指導を行っている。また、日常の事故防止のため、子どもたちの様子を職員同士が互いに見守り、事故を未然に防ぐ体制づくりに取り組んでいる。特に登所時には、子どもの体調や様子を職員が丁寧に確認し、インカムを活用して全職員に共有することで、日々の変化に素早く対応できるよう工夫している。</p> <p>地域と連動した防災体制の確立と初動対応の強化を進めている</p> <p>夏休み期間の災害対応については、児童館職員が迅速に拠点へ駆け付け、機動的に対応できる体制を整えている。地域との連携も強く、町会と連動した災害時の初動対応として、トイレ運用やテント設営などを自主的に行う体制が特徴となっている。一方で、夏休み中の防災倉庫の開錠手順や物資の取り出し、炊き出し実施の可否など、現場での判断基準については、今後さらに明確化する必要があると認識している。今後は、学校や町会との合同訓練を重ねることで、手順や権限を整理し、初動対応をより適切に行える体制づくりを進めていきたい意向である。</p> <p>ICT運用ルールを遵守し安全で信頼性の高い環境を整えている</p> <p>保護者向けに子どもに関する情報を配信することがあるが、個人情報に関わる内容は含めず、適切な範囲で行っている。ICTの運用においては、外部メールの送受信やBluetoothの使用、私物端末の利用を禁止し、校長との連絡も専用アドレスを経由するなど、厳格な情報管理規定を設けている。この規定は正規職員、会計年度職員ともに適用されており、利便性の面で制限があるものの、セキュリティを確保するために必要な措置として徹底されている。現場では、このルールを遵守しつつ、その範囲内で最適な運用方法を工夫しながら対応している。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ5の講評

発達理解を深め適切な支援につなげる職員育成を進める意向である

学童クラブでは、年に3回、子どもに関する職場研修を実施し、健康や発達に関する理解を深めている。昨年度は、より幅広い経験を積み、適切な子どもとの関わり方を学ぶ機会として、他の学童クラブへの派遣研修も行った。事務局長は、職員が社会人としての基本的なスキルを身につけることに加え、子どもへの適切な対応姿勢を確立し、発達や障害に関する理解を深めることで、専門的な支援へとつなげることを目指している。今後も、これらを実現するための研修を計画的に実施し、職員の実践スキルの向上を図っていく考えである。

若年層の採用と育成を軸に福祉人材の確保に努めている

区では、子ども分野の福祉人材の確保を喫緊の課題とし、特に若年層の採用と定着に注力している。クラブ単位では、プレイングパートナー職員へのアドバイスなど、実践的な人材育成を行っている。区全体としては、大学での出張講義や説明会による業界PR、キャリアラダーの短縮、育成計画の整備などを通じて、若手の早期成長とベテラン層のモチベーション維持を両立する体制づくりを進めている。こうした取り組みは、福祉業界全体の人材不足に対する実践的対応として、次世代の担い手を育てる基盤形成につながっている。

職員が自らの責任を意識し、業務に取り組める環境づくりを進めていく意向である

職場における良好なチームワークの構築には、職員一人ひとりの役割明確化と、支援技術の標準化が不可欠であると捉えている。これにより、共通認識を持ちながら業務を遂行でき、安定した職場環境が生み出される。また、子どもの多様な個性に応じて柔軟に対応できる人材の育成には、ベテラン職員が中心となり、実践的な手法や支援の工夫を伝えていくことが重要である。しかし現状では、日々の現場対応に追われ、職員育成や業務改善に十分な時間を確保できない課題に対して対策していく意向である。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

子どもの自主性や社会性を育めるよう、様々な活動とプログラムを子どもに提供する。

【取り組み】

異年齢間の交流や遊びを通じた社会性を育む場として、毎月のイベント開催を実施した。

【取り組みの結果】

子どもの意見を行事やプログラムの中に取り入れることで、自己実現の経験を実感できる場を提供することができた。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもたちの自主性や社会性を育むためには、遊びを通してこれらを自然に経験できる場が重要であると考えている。特に、異年齢での交流を通じて関わり合うことで、今後の生活に欠かせない集団生活の基礎を学ぶことができると捉えている。この考えを踏まえ、毎月、遊びを中心としたイベントを企画・開催している。同じ活動と一緒に行動中、楽しさや喜び、達成感を共有できる機会を提供している。また、イベントの企画段階から子どもたちの意見を取り入れるようにしており、将来的には子ども自身が主体的に企画・運営できるように働きかけていく方針である。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

様々な活動を通して、児童の自主性、自己判断力、社会性を養う

【取り組み】

活動の中で目標を立て、職員が見本となりながら子ども同士の関係性が良好に構築できるよう支援する

【取り組みの結果】

1年生から大人(職員)との信頼関係を気づき、その安心感をもって他の児童との関係性を気付くことができた。それにより、安心・安全な環境を築くことができた。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

1年生の育成において「ルールを守ること」と「挨拶」を生活の基本としている。学童は自由なだけの場ではなく、社会性を身につける成長の場として位置づけており、集団生活の基礎を丁寧に育てている。子どもが相手を思いやる姿勢を学べるよう、職員は日々の声かけを通じて関わりを積み重ねている。また、ルールやマナーを掲示するだけでなく、職員の言葉によって理解を深める取り組みを続けている。子どもの話を丁寧に聞き、受け止めた上で必要な場面ではしっかりと伝える姿勢を重視し、今後も全職員で適切な関わり方の向上を図っていく方針である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>学童クラブの情報は区・学校・児童館・アプリ等多様な手段で周知されている。□</p> <p>学童クラブの情報は、区のホームページなどで提供されている。学校の就学時健診や入学式では、区が作成したリーフレットや資料が配布され、学童クラブの見学が随時可能であることも案内されている。近隣の児童館でも、利用者に対して学童クラブに関する情報提供が行われている。「新BOPだより」は、学校の保護者連絡アプリを通じて、毎月すべての保護者に配信されている。学童クラブ専用のお知らせについては、学童クラブの連絡アプリで周知しており、未読者への再通知や電話連絡などで、情報が確実に行き渡るよう配慮されている。</p> <p>自立支援の方針をリーフレットで示し、家庭への情報提供を行っている。</p> <p>就学時健診などで配布されるリーフレット「一緒にやってみよう!」には、「子どもと一緒に練習しよう!」というタイトルのもと、「あいさつをしよう」「歩いてみよう」「カギをかけよう!」「自分のものは自分で管理しよう!」など11項目がイラスト付きで紹介されており、1年生になるまでに練習するよう促す内容となっている。これは施設や利用方法の案内とは異なり、学童クラブ入会前から少しずつ生活習慣を身につけ、卒所の自立を見据えた新BOPの方針に基づく情報提供であり、保護者への支援としても有効である。</p> <p>地域と連携しながら、保育所や幼稚園への情報発信も少しずつ広げていくことが望まれる</p> <p>新BOP学童クラブでは、年2回「新BOP連絡協議会」を開催し、学校の教職員、PTA役員、遊び場開放運営委員、主任児童委員、青少年委員、複数のスポーツクラブ代表、地域ボランティアなどの参加を得て、活動報告を行っている。これにより、活動内容や現状への理解が深まり、地域関係者との連携も進められている。一方で、保育所や幼稚園などへの直接的な情報提供は行われておらず、将来的に利用対象となる層への情報共有については、今後さらに意識的に取り組むことが求められる。情報提供により連携が進むことで、支援の質の向上も期待される。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入会説明会や写真掲示で生活を紹介し、1年生にはオリエンテーションを実施している</p> <p>新年度前には入会説明会が開催され、「入会案内」に沿って丁寧な説明が行われている。説明会当日には、学童クラブでの子どもたちの様子を写真掲示により紹介し、保護者が生活の様子を具体的にイメージしやすいよう工夫されている。保護者からの質問は書記ノートに記録され、必要に応じて児童台帳にも反映されている。年度当初には、1年生が安心して過ごせるよう配慮し、約1週間かけてオリエンテーションを実施している。生活の区切りごとにトイレの声かけを行い、荷物の置き方、遊具・施設の使い方などについて、職員が丁寧に説明している。</p> <p>笑顔のあいさつや観察を通じて、子どもの状態に応じた支援が実施されている</p> <p>職員は、子どもとの日常的な関わりにおいて、笑顔でのあいさつを心掛け、子どもの表情・態度の観察を通じて、個々の状態に応じた声掛けを行っている。児童台帳や電話、面談を活用した情報確認も行われており、きめ細かな支援体制が整っている。特に障害のある児童に対しては、マンツーマン対応やトイレ・おやつ等の指導、連絡ノートによる保護者との連携など、個別の配慮がなされている。施設は段差のない構造であるが、必要に応じてステップの使用をするなど環境面でも工夫が見られる。子どもの安全と安心を第一に考え、職員が柔軟に対応している。</p> <p>退会前後の不安に個別面談等で対応し、安心と生活の継続性に配慮している</p> <p>学童クラブでは、17時以降は穏やかに過ごすよう声かけを行い、落ち着いた気持ちで安心して帰宅できるよう配慮している。また、卒所を控えた3年生の保護者には、2～3月に個人面談を実施して退会後の生活に関する不安の軽減に努め、子どもの自立を促すための支援を行っている。それでも不安が残る場合には、4年生の春休みにBOPでお弁当を食べることができる旨を伝え、子どもと保護者の安心につなげている。このように、子どもと保護者の不安に寄り添いながら、生活の継続性に配慮した対応が行われている。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 10/10

評価項目1
子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

年間目標に基づき計画・記録・共有・情報発信が丁寧に行われている。
学童クラブでは、年間目標に基づき、年間計画表や行事計画書が作成されている。行事計画は立案者による説明とスタッフ間の検討を経て実施され、実施後には行事結果報告書などを活用し、活動の振り返りも行われている。障害のある子どもに対しては、保護者との連絡や児童票の記録を通じて、個々の子どもの育成状況に応じた支援ができるよう配慮しており、ミーティングでの情報共有も定着している。目標や計画については、新BOPだよりや保護者会などで情報発信も行われており、保護者との連携が図られている。

複数の記録媒体と定期的な共有により、職員間の連携と柔軟な対応が可能となっている
子どもに関する記録は、新BOP日誌や児童台帳、児童票、連絡ノートなど複数の媒体を用いて適切に作成されている。これらの記録は、日々のミーティングや月例の共有の場で活用され、ミーティングノートにもその記録が残されており、職員間での情報の一貫性と正確性が保たれている。特に年度初めには年間計画表や行動計画書をもとに情報を整理し、日々のミーティングではけがノートや連絡ノートを用いて細かな状況まで共有されている。こうした体制により、職員間の連携が強化され、子どもの状況に応じた柔軟な対応が可能となっている。

日々のミーティングと記録を通じて職員間で支援方針が円滑に共有されている
職員間の情報共有は、年度初めの全体確認に加え、毎月・毎日のミーティングを通じて継続的に行われている。ミーティングノートや行動計画書、けがノート、連絡ノートなどを活用し、子どもの状況や支援方針が共有されている。ミーティングは授業終了時間に合わせて昼と夕方に実施され、PP(補助職員)も出勤時にホワイトボードで担当を確認し、勤務終了時には職員が状況を聞き取り、次回のミーティングで共有する体制が整っている。PPIにも必要な情報が伝達され、注意点の確認が行われるなど、職員間の連携が円滑に図られている

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>子どものプライバシーに配慮し、丁寧かつ慎重な情報対応が徹底されている</p> <p>学童クラブでは、子どものプライバシー保護に十分な配慮がなされており、保護者の同意を得たうえで情報共有が行われている。電話ノートや各種記録を活用しつつ、他の子どもや保護者の前では個人情報に関する発言を控えるなど、日常的な場面でも丁寧な対応が徹底されている。保護者とのやり取りで得た情報は、学校へは保護者自身が伝えるよう依頼しており、情報の取り扱いに慎重な姿勢が見られる。入会説明会では学校との情報共有について口頭で説明するなど、安心感を持ってもらえるような対応がなされている。</p> <p>子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な対応で権利と尊厳を守る支援が行われている</p> <p>子どもの権利や意思を尊重する姿勢が日常的な支援の中に自然に根付いている。言葉のかけ方や話の聞き方に配慮し、子どもが自分の気持ちをうまく伝えられない場合には、職員が言葉に置き換えて代弁するなど、丁寧で温かみのある対応が行われている。けんかの際には双方の話の聞き、気持ちを汲み取る姿勢が徹底されており、子ども一人ひとりの感情に寄り添う支援が実践されている。こうした対応は、生育支援の基本として職員に浸透しており、子どもの尊厳を守る取り組みとして継続的に大切にされている。</p> <p>職員の対応力向上へ研修を重視し、実地研修や体制強化が進められている</p> <p>子どもや保護者と接する職員として、基本的な言葉遣いや対応力を高めるための研修の必要性が認識されている。現在は他の学童クラブでの実地研修を通じて、配属外の職員から対応方法を学ぶ機会が設けられており、地区外の学童クラブとの連携による研修も希望されている。区の研修にはより多くの職員が参加できるよう工夫が求められており、今後の人材育成に向けた体制強化が期待される。子どもの尊厳を守るためには、職員の対応力向上が不可欠であり、日々の実践を支える学びの場が充実していくことが望まれる。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>手引書やチェックリストを活用し、業務の標準化と職員の安心につなげている</p> <p>学童クラブでは、年度当初に手引書を配布し、必要な部分を職員間で読み合わせることで業務の標準化を図っている。ミーティングでは日々の反省点を共有し、手引書を確認しながら対応の振り返りが行われている。区が作成した放課後児童健全育成事業のチェックリストを活用し、個人と全体で年3回確認することで、業務の統一性が保たれている。こうした取り組みにより、職員間での認識のずれが生じにくく、安定したサービス提供につながっている。職員が安心して業務に取り組めるよう、今後も継続的な確認と対話を重ねていくことが大切である。</p> <p>子どもの実態に応じて業務を柔軟に見直し、質の向上と環境づくりに努めている</p> <p>学童クラブでは、子どもの実態や職員の意見を踏まえた業務水準の見直しが随時行われている。独自のルールとして、学校施設の利用方法や室内遊び、紙・文具・図書の取り扱いなどについて明文化されており、現場の状況に応じた柔軟な対応が可能となっている。ミーティングノートを活用し、日々の実践を振り返ることで、業務の質の向上が図られている。こうした現場主導の見直しは、子どもにとってより良い環境づくりに寄与しており、職員の意識向上にもつながっている。今後も子どもたちの声を丁寧に拾いながら、より実態に即した運営が期待される。</p> <p>マニュアル整備と研修の充実により、業務の標準化とサービスのさらなる向上が図られる</p> <p>区が作成した各種マニュアルや手順書は「レインボーブック」として事務室内に整備されており、職員がいつでも手に取って確認できるようになっている。こうした資料は業務の標準化を支える基盤として活用され、職員の理解や安心感にもつながっている。今後は、現場での対応を外部の視点から見てもらい、気づきを得られるような研修の実施が望まれている。標準化された業務をより丁寧に実践していくためにも、職員が安心して学べる環境づくりと、気軽に参加できる研修の充実が期待される。こうした学びの積み重ねがサービス向上につながると考えられる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達や生活背景を丁寧に捉えたうえで、支援が行われている</p> <p>学童クラブでは、子ども一人ひとりの発達や生活背景を丁寧に捉えたうえで、支援が行われている。入所前には保育園からの聞き取りを行い学校の担任とも連携を図ることで、家庭の様子も含めた理解が深められている。児童相談所とつながりがある場合には館長への報告も行われ組織的な対応がなされている。また、臨時職員を含むスタッフ間で子どもの個性や支援方法が共有されており日々の関わりの中でそのしらしさを大切にされた援助が実践されている。これらの取り組みは、支援の質を高めるとともに子どもにとって安心できる環境づくりを支援している</p> <p>子ども同士が自然な関わりの中で互いに学び合う姿が見られ異文化理解が促進されている</p> <p>外国籍の児童も在籍しているが、日常生活において大きな困難は見られず、文化的な違いによる細かなルールの理解には支援が必要な場面もある。子ども同士が自然な関わりの中で互いに学び合う姿が見られ異文化理解が促進されている。保護者との連絡では、英語での返信がある場合もあり、翻訳を通じて対応するなど言語的な配慮も行われている。スタッフ間では、臨時職員も含めて子どもの個性や援助方法を共有しており、多様性を尊重した支援体制が整っている。これらの実践は、子どもたちが互いを認め合い、協力し合う関係性を育む基盤となっている。</p> <p>子ども同士のトラブルはスタッフが丁寧に話を聞き取り子どもの気持ちに寄りそっている</p> <p>子ども同士のトラブルが起きた際には、スタッフが丁寧に話を聞き取り子どもの気持ちに寄り添う姿勢が大切にされている。気持ちの高ぶりには、ランチルームや事務室を活用してクールダウンの時間を設けるなど落ち着いて気持ちを整理できる環境が整えられている。臨時職員も含めたスタッフ間で子どもの個性や支援方法が共有されているため対応に一貫性があり、安心感につながっている。こうした支援は、子どもが自分の気持ちを表現し他者との関係を築いていく力を育む大切な土台となっている。今後は放課後に学校保健室を利用できるよう望んでいる。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもたちが自分らしく遊びに取り組めるよう遊びの環境づくりをしている</p> <p>子どもたちが自分らしく遊びに取り組めるよう遊びの環境づくりをしている。年度末には、子どもたちの声を取り入れながら遊具を選び予算の範囲で遊びの幅を広げる取り組みが行われている。細かな遊具はビニールケースに整理され子どもが自由に選べるようにしており、床に直接置かない約束のある遊具もあり安全面への配慮もしている。ブロックやファミリー人形、塗り絵など、子どもたちの興味に応じた遊びが展開されており個々の発達段階に応じた選択ができる環境が整っている。日々の工夫が、子どもたちの主体的な関わりを育む大切な土台となっている。</p> <p>月1回のイベントや日々の集団遊びを通じて子どもが主体的に関わっている</p> <p>新BOPでは、月1回のイベントや日々の集団遊びを通じて子どもが主体的に関われるよう支援が行われている。集団活動が苦手な子どもには無理のない段階的な参加を促し、自信のない子には声かけを通じて後押しするなど個々のペースに寄り添った援助が見られる。イベントへの参加は「新BOPだより」や職員の紹介を通じて行われ、友だちと一緒に参加できることを喜ぶ姿も確認されている。外遊びでは、子どもたちの「やりたい」という気持ちを尊重し新しい遊びを取り入れる工夫がなされている一方で、遊びの偏りへの配慮も課題として認識されている。</p> <p>遊びや日常の関わりを通じて、生活習慣と人との関係性を支援している</p>			

新型コロナウイルス感染症の影響により入所前の生活で人との関わりを学ぶ機会が限られていた子どもが多く「あいさつ」や「人の話を聞く」といった基本的な生活習慣に課題が見られる状況がある。こうした背景を踏まえ、遊びや日常の関わりを通じて子どもが人と関わる楽しさや大切さを学べるよう支援が行われている。新BOPは、子どもが安心して人との関係性を築く場として機能しており、生活習慣の定着に向けた実践が積み重ねられている。遊びの中で自然に挨拶が交わされるような環境づくりや、話を聞く姿勢を育む関わりを目指している。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>行事の企画にあたり子どもたちの興味や関心を大切に工夫している 学童クラブでは、行事の企画にあたり子どもたちの興味や関心を大切に工夫が見られる。実施前には昨年度の行事結果報告書をもとに振り返りを行い、子どもたちの声を取り入れながら内容を検討している。異年齢の関わりを意識した遊びの見守りや、伝承遊びを通じて大人が楽しさを伝える姿勢もみられる。一方で毎年同じ行事が続くことで企画がマンネリ化する傾向もあり、異動してきた職員には過去の施設での取り組みを紹介してもらうなど、新しい視点を取り入れる工夫もされており、子どもが自ら関わりたくなるような行事づくりにつながっている。</p> <p>子どもたちが遊びの企画に積極的に関わられるような場づくりが行われている 学童クラブでは、子どもたちが遊びの企画に積極的に関わられるような場づくりが行われている。ルールのある遊びでは、子どもたち自身が感じていることをもとに新しい提案をする場面もあり、大人では気づきにくい視点からの助言や工夫が取り入れられている。こうした関わりは、子どもたちが自分の意見を表現し、仲間とともに活動をつくり上げる経験につながっており、主体性や協調性を育む機会となっている。日常の中で自然に意見を交わしながら、遊びや活動が形づくられていく様子は、子どもたちの成長を支える大切な土壌となっている。</p> <p>保護者・スタッフと協力し子どもたちの意欲的な活動環境を整備している 行事や活動の準備にあたり、保護者やスタッフの協力を得ながら子どもたちが意欲的に取り組める環境づくりを進めている。おやつ空き箱は日常的に自由工作に活用され、夏休みには「箱制作」月間として創造的な時間が設けられている。箱の回収には臨時職員も協力し出来上がった作品は各自持ち帰っている。また児童館まつりへの参加に際しては、共通様式の承諾書を保護者から受け取るなど理解と協力を得る工夫がされている。家庭の事情で参加が難しい子どももいる中で、できる限りの配慮がされており、子どもたちの意欲を支える温かな支援がみられる。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>学童クラブでは、子どもが安心して楽しく通える場づくりが日々意識されている 学童クラブでは、子どもが安心して楽しく通える場づくりが日々意識されており、「仲良しの友だちと遊べることを楽しみに登室する姿が見られる。登室後にはホワイトボードでその日のイベントや遊び場を確認し、自分で行動を選択する習慣が根づいている。このような取り組みは、子どもが自らの判断で過ごす力を育むとともに、学童クラブを自分の居場所として感じられるよう支えている。安心・安全な環境の中で、子どもが主体的に関わられる日常が積み重ねられており、通い続けたいという気持ちを自然に引き出す土台となっている。</p> <p>子どもが時間の流れを意識しながら主体的に行動できるよう援助している 子どもが時間の流れを意識しながら主体的に行動できるよう生活の区切りを設けている。夏時間には16時50分に片付けをする約束があり子どもたちは自分で時計を見て行動を調整する習慣が生まれている。片付けに時間がかかる遊びや子どもには、早めに取りかかるよう促すことで自然と所要時間の感覚を身につけていく支援がされている。遊びに夢中になっている子どもには、職員が優しく声をかけて気持ちの切り替えを促すなど、個々のペースに寄り添った援助が行われており、このような工夫は、子どもが見通しを持って過ごす力を育む支えとなっている。</p> <p>子どもが快適に過ごせるよう室内環境に細やかな配慮がなされている クラブでは子どもが快適に過ごせるよう室内環境に細やかな配慮がなされている。机や物品の配置、空調の調整に加え育成室の隣のランチルームは、おやつや昼食時だけでなく静かに過ごしたい子どもへの配慮としても活用されている。「声のものさし」や生活ルールの掲示など安心して過ごせる工夫も見られる。17時以降は静かな活動に適した部屋へ移動するなど時間帯に応じた環境調整も行われている。今後は机と椅子の導入によりさらに落ち着いた空間づくりが期待される。新BOPとして放課後子供教室と一体的に活動しており制度的な連携も図られている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

子どもが放課後の時間を安心して過ごせるよう、学校との連携が日常的に行われている
 子どもが放課後の時間を安心して過ごせるよう、学校との連携が日常的に行われている。副校長や主事との連絡を通じて、使用する部屋の確認や急な変更への対応もしている。また学校とクラブでのルールの違いによる混乱を避けるため、できる限り学校と同様の対応を心がけている点も特徴的である。活動内容や使用場所は毎日記録され気になる事案があった場合には学校へ報告し情報共有が行われている。こうした取り組みは、子どもが安心して学童クラブでの生活を送るための基盤となっており、学校との信頼関係のもとで支援が進められている。

不登校などの課題を抱える子どもへの支援においても学校との連携が行われている
 不登校などの課題を抱える子どもへの支援においても、学校との連携が丁寧に行われている。担任の先生との情報共有を通じて子どもの状況を把握しながら学童クラブでの過ごし方に配慮した援助がなされている。過去には、児童相談所と関わりのある不登校の子どもが朝から登室した際学校と連携して保健室登校へと移行する支援が行われた。必要に応じて養護教諭とも話し合いがなされるなど子どもの気持ちに寄り添った対応が見られる。こうした連携は、子どもが安心して過ごせる場を確保し少しずつ社会とのつながりを取り戻すための大切な支えとなっている。

発達や養育環境に配慮が必要な子どもへ関係機関と連携し支援を行っている
 発達面や養育環境に配慮が必要な子どもへの支援では、教育・福祉・医療の関係機関と連携しながら、適切な援助が行われている。子どもも家庭センターや児童相談所との連絡、職員間のミーティングを通じて、家庭の状況も含めた理解が深められている。こうした背景の共有により、子どもが安心して過ごせる支援につながっている。一方で、教職員との定期的なミーティングの必要性も指摘されており、BOPへの理解を深めるためには、地域学校連携課が中心となった研修の機会が望まれる。今後の連携強化が、より包括的な支援体制の構築に期待したい。

6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

子どもが安心しておやつを楽しむことができる環境づくりを行っている
 学童クラブでは、おやつ時間が子どもにとって楽しく、落ち着いて過ごせるひとときとなるよう、環境づくりに細やかな配慮がされている。テーブルと椅子のあるランチルームを使用し、1回に食べる人数を20人程度に制限することで、職員の目が届きやすく、静かに食べる習慣が身につくよう支援されている。会話が弾みすぎて行儀が乱れることへの対策も講じられており、麦茶の提供による水分補給も行われている。子どもが安心しておやつを楽しむことができる環境づくりにつながっており、日々の生活の中で心の安定を育む一助となっている。

おやつ提供にあたっては、子どもの来所時間や帰宅予定、校庭遊びなど考慮している
 おやつ提供にあたっては、子どもの来所時間や帰宅予定、校庭遊びとの兼ね合いなどを考慮し、柔軟な対応がなされている。おやつは区の契約業者から週1回配達され、事前に届くメニュー表をもとに一週間の献立が組まれている。乳製品、調理パン、果物など多様な内容が含まれており子どもたちは毎回楽しみにしている様子が見られる。日によってはおかわりも可能で、子どもたちの満足につながっている。おやつ時間は単なる飲食の場ではなく、子どもが自分のペースで過ごしながら、生活のリズムを整える大切な時間として位置づけられている。

食物アレルギーへの対応は職員全員で誤食防止に向けた配慮が徹底されている
 食物アレルギーへの対応は、職員全員で毎日確認を行い、誤食防止に向けた配慮が徹底されている。アレルギー児童には、名前入りの専用トレイで他児童と区別して提供され、おやつは個別のプラケースに保存し、マニュアルに基づいて対応している。業者による個別対応もあり、現在は持ち込みがなく、統一された体制のもとで安全性が確保されている。食後は学年順に降所時間に合わせて声かけを行うなど、細やかな配慮も見られる。こうした取り組みは、すべての子どもが安心しておやつを楽しめる環境づくりに寄与している。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日々の積み重ねが、子どもたちの健康意識の育成につながっている</p> <p>子どもが健康や安全に関心を持ち、自ら気づき行動できるような支援が日常的に行われている。登所時には職員が通学路や玄関で子どもの様子を確認し、体調やけがの兆しにいち早く気づけるよう努めている。おやつや帰りの時間にも顔色や様子を観察し、必要に応じて声かけを行うなど、きめ細やかな対応が見られる。体調不良やけがの際は、コドモンや電話で保護者に連絡し、子ども自身にも報告の練習を促すなど、自立を支える工夫もされている。遊具の使い方指導や点検も定期的に行われ、安全への意識づけが丁寧に進められている。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもに対しては、連携に基づく対応をしている</p> <p>医療的配慮が必要な子どもに対しては、専門機関との連携を図りながら、個別の状況に応じた支援が行われている。筋ジストロフィー症の児童については、専門家の知見をもとに、最新の配慮を取り入れた見守りが実施されている。また、エビベン保持者についても、BOP登録児童の利用時にはランドセルへの携行を徹底するなど、安全管理がなされている。保護者への説明や緊急連絡体制の整備も進められており、連絡先の変更があった場合には速やかな連絡をお願いするなど、協力体制が築かれている。</p> <p>子どもが心身ともに健やかに過ごせるよう、環境整備と安全管理に取り組んでいる</p> <p>学童クラブでは、子どもが心身ともに健やかに過ごせるよう、環境整備と安全管理に継続的に取り組んでいます。日常的に室内備品や遊具の点検を行っているほか、職員の出勤が多い日には「環境デー」を設け、全員で屋外遊具やおもちゃの点検を実施しています。特定の担当に任せず全員で行うことで、見落としがちな点に気づく機会となり、使い方の見直しや危機管理意識の向上にもつながっています。また、体調が悪い時は、必要に応じて静かに休める環境も整えられている。感染症が疑われる場合には速やかに保護者へ連絡し、適切な対応が取られている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>記録と対話を通じて保護者と連携し、安心できる育成支援を行っている</p> <p>学童クラブでは、児童台帳や児童票、面談記録をもとに子どもの育成状況を把握し、保護者と連携した支援を行っている。連絡アプリや電話を活用した日々のやり取りを通じて信頼関係を築き、送り迎えや電話での会話では子どものプラス面を意識的に伝えることで、愛情が伝わるよう配慮されている。面談では家庭との情報共有も図られ、保護者が安心して子育てできるよう、記録と対話を通じた丁寧な支援体制が整えられている。子どもの日々の様子を丁寧に観察し、保護者と共有することで、家庭と協力しながら育成支援を行う姿勢が根付いている。</p> <p>保護者交流や柔軟な対応を通じて、家庭に寄り添う運営が行われている</p> <p>保護者会は定期開催ではないが、年度末などに実施されており、保護者が参加しやすい、学校の保護者会の日程に合わせ、平日夕方に設定されている。下校ルートごとのグループ分け、自己紹介、3年生の子どもの成長についての話などが盛り込まれ、保護者同士の交流が促されており、子どもの成長を共有する場として機能している。連絡アプリを通じた案内や、備考欄への意見記入の呼びかけ、電話対応など保護者の声を受け止める姿勢も見られる。急な延長利用にもスポット登録で柔軟に対応しており、家庭の状況に寄り添った運営がなされている。</p> <p>子どもの安全確保に向けた迅速な対応と保護者連携が徹底されている</p> <p>子どもが連絡なく来所しない場合には、学校に状況を確認したうえで保護者に連絡し、必要に応じて職員が通学路を実際に探しに行くなど、安全確保に向けた迅速な対応が徹底されている。「わかるまで探す」という姿勢は、保護者の安心感につながっている。一方で、緊急連絡先につながらないケースもあるため、個人面談の際に連絡先の確認を行い、保護者と連携して子どもの安全を確保する取り組みが進められている。日々の記録や新BOP日誌、各種ノートを活用した情報共有により、職員間の連携が保たれ、保護者支援の質の向上にもつながっている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>児童館との連携や地域交流を通じて、子どもの生活の幅を広げる支援が行われている</p> <p>学童クラブでは、児童館事業の紹介や参加の促進を通じて、地域資源とのつながりを意識した支援が行われている。児童館が地域連携の中心的役割を担い、学童クラブとは役割分担がなされている点は明確である。地域の「おはなし会」グループや中学生による読み聞かせなど、地域住民との交流機会が定期的に設けられており、子どもたちが地域の多様な人々と関わる機会が確保されている。こうした取り組みは、子どもの生活の幅を広げるうえで有効であり、地域とのつながりを育む基盤として機能している。今後も継続していくことが望まれる。</p> <p>児童館イベントに子どもや保護者が関わり、地域との交流が期待されている</p> <p>児童館のイベントには、学童クラブの子どもたちが「こども実行委員」として希望制で参加しており、企画段階から関わることで主体性を育む機会となっている。また、保護者も任意で出店する形でイベントに関与しており、家庭と地域が協働する場としての機能も果たしている。コロナ禍以前には、地元ラグビーチームや太鼓、お手玉などの地域交流が活発に行われていたが、現在は途絶えているため、今後の再開が期待される。地域の方々が新BOPの活動を見学できる機会の創出も、さらなる理解促進につながると考えられる。</p> <p>多様な地域関係者と連携し、理解と協力を得る体制が整っている</p> <p>新BOPの連絡協議会には、学校関係者、PTA、主任児童委員、青少年委員、地域スポーツ団体、ボランティアなど多様な関係者が参加しており、年2回の開催を通じて方針や子どもの様子を共有し、理解と協力を得る体制が整えられている。事務局長は児童館地域懇談会にも参加しており、地域との接点を広げる役割を担っている。外部との連携は児童課を通じて行われているが、児童館の活動に乗る形での連携はスムーズであり、地域資源を活用した支援の展開に有効な環境が整っている。今後は地域住民の見学機会の充実など、さらなる交流促進が期待される。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	日々の見守りと危機対応力の向上で築く安全で安心な学童環を構築している	
内容①	<p>子どもの安全確保を重要課題とし、日々の怪我防止と感染症予防に細心の注意を払っている。年3回、看護師を招いた研修を実施し、発作時の対応や正しい手洗い方法などを学び、職員一人ひとりの危機対応力を高めている。また、日常の事故防止に向けては、職員同士が常に子どもの様子を見守り合い、異変を早期に察知できる体制を整えている。特に登所時には体調や表情の変化を丁寧に確認し、インカムで全職員に共有することで、迅速かつ的確な対応を図っている。こうしたきめ細やかな連携のもと、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-1	子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している
タイトル②	職員の協働と柔軟な支援体制により、年間を通じた見直しで質の向上を図っている	
内容②	<p>学童クラブでは、子どもの実態や職員の意見を踏まえ、年間を通じて業務内容や支援方針の見直しを行っている。年度当初に配布される手引書の読み合わせや、定期的なミーティングでの反省共有を通じて、職員間での認識の統一と改善意識の醸成が図られている。また、子ども一人ひとりの状況に応じた個別ルールの調整や、支援体制の柔軟な変更が行われており、現場の実態に即した対応が可能となっている。こうした年間を通じた見直しの仕組みは、サービスの質の維持・向上に直結するものであり、継続的な改善を支える重要な基盤となっている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル③	共に成長できるインクルーシブな環境が形成されており支援の質の高さがうかがえる	
内容③	<p>障害のある子どもを含む全ての児童が安心して集団生活を送れるよう、一人ひとりを尊重した援助を行っている。障害特性については利用児童にも丁寧に伝え、安全な関わり方を促している。保育園や学校で同じクラスの児童は特性への理解が深く、自然な関係性が築かれていることが多い。遊びの場面では得意なことや援助が必要なことを踏まえた工夫が見られ、共に遊ぶ中で「できなかったことができるようになる」喜びを分かち合う姿が確認できる。障害のある児童が他の児童と共に成長できるインクルーシブな環境が形成されており支援の質の高さがうかがえる</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	基本的な生活習慣と人との関わりを重視した社会性育成へ、職員が一丸となって取り組んでいる
	内容	1年生の育成において「ルールを守ること」と「挨拶」を生活の基本とし、社会性を育む場ことを重視している。職員は日々の声かけや関わりを通じて、子どもが相手を思いやる心を自然に学べるよう支援している。掲示によるルール提示だけでなく、言葉で理解を深め、子どもの話に耳を傾ける姿勢を大切にしている。また、異年齢での交流や遊びを通じたイベントを毎月企画し、楽しさや達成感を共有する中で、協調性や主体性を育てている。こうした実践を通して、子どもたちが将来にわたり社会の中で自分らしく生きる力を身につけられるよう取り組んでいる。
2	タイトル	子どもの主体性を尊重する取り組みとして学童クラブ児とBOP児が合同で参加する学年会議を定期的に実施している。
	内容	子どもの主体性を尊重する取り組みとして学童クラブ児とBOP児が合同で参加する学年会議を定期的に実施している。会議では全員の発言するよう配慮されており学年ごとに分かれているため他学年を気にせず安心して意見を述べるができる。普段発言の少ない児童が思いがけない発言をする場面やBOP児の積極的な発言も見られ新たな気づきにつながっている。特に二年生では男女別に分けることで日常の不満を共有する機会が生まれている。また全体遊びにおいては児童からの提案により集団を小さくする工夫が取り入れられ活動の質向上に寄与している。
3	タイトル	サービスの見直しと業務の標準化に向けた仕組みが整備され、継続的に運用されている
	内容	新BOP学童クラブでは、区が作成したチェックリストを活用し、個人および全体で年3回の確認を行うことで、業務の標準化に向けた継続的な取り組みが行われている。各種マニュアルは「レインボーブック」として事務室に常備され、職員が随時確認できる体制が整っており、業務の質の維持・向上に寄与している。さらに、学校施設の利用ルールや遊具・文具の取り扱いについても、新BOP独自のルールを策定し、子どもの実態や職員の意見を反映しながら随時見直しを行っている。これらの取り組みにより、サービスの質の向上に繋がっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	一人ひとりの声を尊重する支援と人材育成の強化により、子どもの主体性をさらに伸ばしていく取り組みに期待したい
	内容	子どもの支援を「自らの考えや気持ちを言葉で表現できる力を育むこと」と捉え、日々の活動や行事を通じて意見を尊重する環境づくりに努めている。施設規模を活かし、一人ひとりの声を丁寧に受け止める支援が実践されている点は大きな強みである。一方で、行事や係決めなどでは職員主導になる場面もあり、今後は子どもに実践の場を任せ、主体的に行動できる機会を増やすことが課題となっている。その実現に向け、行事企画や日常活動を通して子どもの自主性を引き出すとともに、職員の人材育成を含めた支援体制の拡充に向けた取り組みに期待したい。
2	タイトル	支援体制は整備されているが、学童クラブの取り組みについて保護者等への説明や情報開示がやや不足している
	内容	クラブでは業務の標準化やサービスの見直しに向けた体制が整備されている一方で、保護者への情報開示にはさらなる工夫が求められる。クラブの取り組みや支援方針などについて、保護者が理解しやすい形で定期的に発信することで、信頼関係の構築や協働的な子育て支援につながる可能性がある。現在は連絡アプリや面談などで情報共有が行われているが、業務内容や支援の背景を伝える機会は限られている。今後は保護者会や配布資料、アプリ配信などを活用し、クラブの取り組みをより積極的に開示していくことが望まれる。
3	タイトル	子どもたちに、約束を守ることの意義を繰り返し伝えながら、子どもの主体的な生活習慣の形成を促す支援の工夫に期待したい
	内容	クラブでは、生活や遊びを通じて基本的な生活習慣の習得を支援しているが、手洗い時のハンカチの保持、大人への言葉遣い、ルール遵守などに課題が見られる子どもも多い状況となっている。これらは集団生活において不可欠なルールであり、障害のある子どもを含めた全手の子どもが安心して過ごすための基盤である。家庭や関係者の振る舞いが模範となることもあるため、職員は日常的に丁寧な言葉遣いを心がける必要がある。今後は、約束を守ることの意義を繰り返し伝えながら、子どもの主体的な生活習慣の形成を促す支援の工夫を期待したい。